

論文の内容の要旨

論文提出者氏名	濱 峰 幸
論文審査担当者	主 査 本田 孝行 副 査 竹下 敏一 ・ 駒津 光久
論文題目	
Health-related Quality of Life in Patients with Pulmonary Infection with Nontuberculous Mycobacterium (肺非結核性抗酸菌症患者における健康関連 QOL の評価)	
(論文の内容の要旨)	
<p>【背景・目的】肺非結核性抗酸菌症(肺NTM症)は、非結核性抗酸菌による慢性感染疾患である。症状として咳嗽、喀痰、呼吸困難、血痰などの呼吸器症状を認めるが、無症状の場合も少なくない。治療に関しては、数種類の抗微生物薬を使用する多剤併用療法が主体であるが、治療効果に個人差があり、再発が多い。また、消化器症状や視力への影響などの副作用の問題も少なくない。そのため、現時点で肺NTM症に対する治療開始基準は明確なものがなく、症状、画像所見等を総合的に評価し、増悪している症例には治療を開始しているのが現状である。近年、慢性疾患に関して健康関連QOL(HR-QOL)を評価することの重要性が指摘されている。また、肺NTM症の治療開始基準の1つとしてHR-QOLを評価することは重要であるが、現在のところ肺NTM症に関してはHR-QOLを評価する基準がない。他の呼吸器疾患で使用されているHR-QOL評価票である、COPD assessment test(CAT)、St. George's Respiratory Questionnaire(SGRQ)の肺NTM症患者に対する有用性について、検討する。</p> <p>【方法】本研究は横断研究で、信州大学医学部附属病院呼吸器内科に通院している52人の肺NTM症患者を対象とした。肺NTM症の診断基準としてAmerican Thoracic Society/Infectious Disease of Americaのガイドラインを用いた。肺NTM症患者に対するCAT、SGRQの有用性を評価するために、同質問表の信頼性、一貫性、妥当性をそれぞれ評価した。信頼性の評価のために再テスト法(第1日目、第5日目の2回テストを受ける)を行い、また一貫性の評価のためCronbach α係数を計算した。妥当性の評価として一般のHR-QOL評価票であるShort Form-36 Health Survey(SF-36)とCAT、SGRQとの相関を検討した。SF-36は32の質問項目があり、身体サマリースコア(PCS)、精神サマリースコア(MCS)を計算できる。CAT、SGRQの点数とPCS、MCSの相関係数を求めた。対象患者に、それぞれ第1日目にCAT、SGRQ、SF-36、精密呼吸機能検査、6分間歩行試験を施行し、第5日目にCAT、SGRQ、SF-36を再度施行した。</p> <p>【結果】CAT、SGRQの総合点は、第1日目と第5日目の間にそれぞれ$r=0.85$、$r=0.91$と強い相関を認めた。またCAT、SGRQの総合点のCronbach α係数は、それぞれ0.879、0.911であった。SF-36との相関に関して、CAT、SGRQの総合点とPCSは、それぞれ-0.63、-0.57と中等度から強い相関を認めた。CAT、SGRQの総合点とMCSは、それぞれ-0.46、-0.42と中等度の相関を認めた。呼吸機能との関連については、CAT、SGRQともに%DLcoのみ中等度の相関を認め、6分間歩行距離とは弱い相関を認めた。</p> <p>【考察】再テスト法、Cronbach α係数の計算から信頼性、一貫性を確認し、またSF-36との相関から妥当性を確認した。以上の結果から、肺NTM症患者に対するHR-QOLの評価票として、CAT、SGRQは有用であると考えられる。また、QOL評価は呼吸機能検査等の生理学的指標とは独立して評価されるべきとされており、今回の調査でも呼吸機能と強い相関は認めなかった。呼吸機能、6分間歩行距離が比較的保たれている段階で、QOLの障害が出現している可能性があり、CAT、SGRQによるHR-QOL評価は肺NTM症患者に治療を開始する基準の1つとなる可能性が示唆された。</p>	

【結論】肺 NTM 症患者に対する HR-QOL の評価として、CAT、SGRQ は有用である。肺 NTM 症患者の治療導入を判断する際の評価基準の 1 つとして、利用できる可能性が示唆された。